
名東区の活動事例



名東区

西山学区民運動会



【西山学区】

■世帯数：6,725 世帯

■人 口：16,294 人

■面 積：1.794 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 西山小学校校庭を会場に「西山学区民運動会」を開催。参加者数は約 1,250 人。
- ・ 子どもから高齢者まで参加できるよう、種目を検討し、町内対抗で競技を行う。競技への参加者は、事前に自治会長を通じて募集する。優勝チームが、次年度の開会式における選手宣誓を担当する。
- ・ 開催準備段階で、地域内の企業を回り、協賛を依頼する。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧

【アピールポイント】

平成 24 年度で第 46 回目の開催を迎える西山学区最大のイベントとなっている。

2 きっかけ、背景

学区内住民の親睦を深める場として、また体力の向上をはかり、特に運動不足になりがちな大人たちの健康づくりのために、毎年継続して学区民運動会を開催している。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 160 人

4 実施のスケジュール

毎年7月 種目の検討



8月 地域にある企業へ協賛の依頼



9月 お知らせ、プログラムを配布



10月 運動会の実施



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が増加し、住民間の交流が深まった。
- ・チーム一丸となって応援し、勝っても負けても拍手を送る姿は住民の交流の深さのたまものである。

(2) 苦労した点

- ・準備が大変だが、協力できる若い世代が不足している。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動資金の確保とともに、担い手の世代交代が今後の課題となっている。若い担い手を育てていかなければならないが、なかなか思うように進んでいない。

名東学区みまもり隊



【名東学区】

■世帯数：6,957 世帯

■人 口：14,524 人

■面 積：1.251 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

「みんなで守る、ちいきで守る」をスローガンに、「名東学区みまもり隊」を立ち上げ、子どもの各種見守り活動を実施。延べ参加者数は 2,000 人を超える。

- ① 名東学区こどもこうばん：希望者の自宅玄関にこどもこうばんプレートを設置
- ② 「5つの約束」看板：公園や学校、大型スーパーなど、子どもが立ち寄りそうな場所に「5つの約束」看板を設置
- ③ 「第1次みまもり隊」：下校時の付き添いと犬の散歩時など日常生活の中でできる部分や交差点、通学路での見守り活動。自転車、バイク、車などに「防犯パトロール中」パウチを掲示
- ④ ウルトラパト隊：夏休み中の毎週1回、子どもが立ち寄りそうな場所を中心としたパトロールを実施
- ⑤ イブニングパト隊：毎月1回、公園や通学路のパトロールを実施
- ⑥ SP（セキュリティパトロール）隊：月2回、ボランティア中心によるパトロールを実施

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示、前年度ボランティアの方々への案内

【アピールポイント】

リピーターとして参加してくれる人が多いことに加えて新規参加も多く、参加者が増加している。

活動中の笑顔が多く、楽しんで活動してくれている。運営側も参加者が「来た」「来ない」ということを絶対に口にしないようにしている。

2 きっかけ、背景

全国で子どもが犠牲になる痛ましい犯罪が続出する中で、名東学区に「子どもたちを守る」取り組みが存在しなかった。そこで、全児童に防犯ベルを携帯させるなど「子どもの安全は自分たちちいさで守る」という機運が芽生え、「名東学区みまもり隊」が組織されることとなった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、スポーツ推進委員、小・中学校、名東警察署 計約 20 人

(2) 運営協力

それぞれの活動の開始時期に参加者募集のチラシを作成し、小学校を通じチラシの配布と回覧で呼びかけ、メンバー増員を図る。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・多くの住民に防犯意識が生まれた。多くの人とあいさつを交わすことにより明るく住みよい学区になっている。
- ・学区民同士はもちろん、各種団体の横のつながりも強くなり学区のイベントもスムーズに運営できるようになった。
- ・学区の統一防犯色「セキュリティーレッド」の使用により犯罪を抑制し、起こさない学区になってきている。
- ・多くのボランティアに参加してもらうことで、学区が活性化した。

(2) 苦労した点

- ・第 1 次みまもり隊ではリーダー不在であったため、まとまりがなく参加者が少なかった。

(3) 今後の課題・展望

- ・今まで以上に住民への活動の周知をはかり、より多くの人参加を得ることが、活性化、安心・安全につながるとともに、災害時の役に立つことが期待される。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・「できる時にできる範囲で」を原則に、ノルマ制にしない。しっかりとしたリーダーの設置と骨子が必要。また、学区内犯罪数の数値を明確にし、目的意識をはっきりとさせるべきである。
- ・組織運営は様々な団体の複数のリーダー参画にて行う。
- ・面白く、参加しやすい土壌を作り、「来た」「来ない」を絶対口にしない。

4 実施のスケジュール

H17 年 9 月 こどもこうばん・5 つの約束看板立案、
小学校高学年児童にデザイン原画募集



H18 年 1 月 こどもこうばんプレート、5 つの約束
看板設置



H18 年 第 1 次みまもり隊開始



H20 年 ウルトラパト隊開始



H21 年 イブニングパト隊開始



H22 年 SP（セキュリティーパトロール）隊開
始



H23 年 10 月 第 1 次みまもり隊、ウルトラパト隊、
イブニングパト隊、SP 隊を「名東学
区みまもり隊」と総称

高針フェスタ



【高針学区】

■世帯数：2,935 世帯

■人 口：6,716 人

■面 積：0.817k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

高針の風土や昔からの生活技術を学び、住民間の交流を深める「高針フェスタ」を開催。小学校やコミュニティセンターのほか、地域全域を会場とする。延べ参加者数は約 300 人。

- ・ 高針の歴史および現在を知ること为目的とした高針村検定の実施
- ・ 子どもを中心に各ルートに分かれて、地域の歴史的建造物や地区などを巡り、高針の歴史と現在を知る企画の実施
- ・ 参加者がグループに分かれて、昔からの伝統的食物（おこしもん、ニンジンごはん）についての料理教室を開催
- ・ わらそうりや竹籠などを作る教室を開催
- ・ その他の出店

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示、学区新聞への掲載、学校・学童保育・その他の地域団体での呼びかけ

【アピールポイント】

地域の団結をフェスタという祭り形式で実現できること。歴史的な遺産が多くあるという地域の特性を生かしている。

2 きっかけ、背景

高針学区は古くからの集落が発展してきた地域で、近年他地域からの転入者が増え、いわゆる新・旧住民のふれあい交流を促進し、地域の一体化を図る必要がある。そこで、2年前から学区全体で「高針フェスタ」を開催することとなった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、子ども会、スポーツ推進委員
計約 50 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会加盟団体

4 実施のスケジュール

毎年 11 月 企画・参加者・運営などを検討



1 月～ 具体的な準備



2月第3週 第1弾：おこしもん作り教室
(土または日)



2月第4週 第2弾：高針村検定、地域巡り検定、出店（わらそうり、竹籠、その他販売）

5 成果と課題

(1) 成果・効果

平成 23 年から開催しているが、参加者、企画も増加してきており、新たに参加を希望する団体も現れている。

(2) 苦労した点

「高針村検定」または「地域巡り検定」などは、一定の知識がないと参加を敬遠され、参加者を集めるのに苦労する。

(3) 今後の課題・展望

内容を拡充させながら、今後も継続して開催することで、高針学区の恒例行事にしていきたい。



自主防災訓練で身に付く 安心安全まちづくり及び防災安心まちづくり



【猪高学区】

■世帯数：4,236 世帯

■人 口：8,979 人

■面 積：0.902 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・猪高コミュニティセンター、猪高小学校の校庭と体育館を会場に、自主防災訓練を実施。延べ参加者数は約 280 人。
- ・学区区政協力委員会において、訓練内容を検討し、学区連絡協議会で承認、決定したものを各町内会の自主防災会に伝達する。訓練内容は事前に学区内全世帯に配布し、参加意識を高める。
- ・自主防災会役員に対し、事前に自主防災会の説明講習会を開催するとともに、行政との調整を行う。
- ・訓練は各町内の集合場所から避難誘導係の先導により小学校体育館に集合し、自治防災組織についてのビデオ上映、初期消火訓練、消火器取り扱い訓練、心肺蘇生 AED 訓練、幼児による放水体験などを行う。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、掲示板への掲示

【アピールポイント】

日常生活で初期消火行動ができるように参加者全員が消火器による消火訓練を行う。（1 年で消火器 100 本使用）

また、参加者全員が A E D を使用できるよう訓練を行う。小学生以下の子どもは、消火の疑似体験を行う。

2 きっかけ、背景

学区住民が協同して災害に対処できるよう、毎年学区主催の自主防災訓練を行っている。大人も子どもも、基礎消火体験やビデオ等による防災教育を通じて防災意識の育成・向上に努め、日常生活上での防火にも反映できるよう内容を工夫した訓練を行っている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、子ども会、スポーツ推進委員 計約 20 人

(2) 運営協力

学区連絡協議会の各種団体長の参加を呼びかける。

4 実施のスケジュール

4 月 学区区政協力委員会にて実施案の検討



5 月 学区連絡協議会にて実施案の決定



全世帯に実施内容をチラシにて配布
7 月 各町内会の自主防災会メンバーへの説明講習会の開催



9 月 小学校体育館および校庭で訓練の実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 全世帯に占める参加者の比率は低いが、参加者の防災意識は高まっている。
- ・ 子どもたちの防災教育に役立っている。

(2) 苦労した点

- ・ 住民の自主参加が少なく、参加者の確保に苦労している。
- ・ 毎年同じ内容となっているため、内容に変化を加える工夫が必要である。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続と担い手の世代交代が課題である。毎年消防団が活動するが、今後は各町内会自主防災会役員による運営実施としたい。
- ・ 気候の良い時期だけでなく、寒さの厳しい時期に訓練を行うことも必要である。



藤が丘学区防犯協会



【藤が丘学区】

■世帯数：7,099 世帯

■人 口：12,297 人

■面 積：1.071 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

学区内住民の防犯意識を高め、地域の防犯力を向上させるために、藤が丘学区防犯協会による各種防犯活動を実施。延べ参加者数は約 370 人。

- ① 防犯活動：毎月 1 回、地域安全パトロールを実施
- ② 自転車対策活動：毎月 2 回、放置禁止地域内のパトロールを実施
- ③ 防犯自転車診断：毎月 1 回、施錠、防犯登録の有無の確認
- ④ 新入生対象放置自転車追放キャンペーン：年 1 回
- ⑤ 放置自転車追放キャンペーン：年 2 回
- ⑥ 夏季の夜間警戒パトロール：年 2 回
- ⑦ 年末の特別警戒パトロール：年 2 回

【住民への PR 方法】

広報「藤が丘」（毎月 1 回発行）に活動内容などを掲載

【アピールポイント】

藤が丘学区自治会役員は、各種学区行事への参加意識が高い。また、藤が丘学区セーフティパトロール隊の隊員（9 人）はボランティアによる活動で、隊員間の連帯意識も強く非常に協調的である。

2 きっかけ、背景

藤が丘学区は、転入・転出による人の異動が多く、それに付随して各種犯罪也多発していたため、学区防犯協会の顧問が危機感を抱き、平成の初めごろにパトロール隊を結成し、自治会選出の防犯委員と連携して活動することとなった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

パトロール隊員、自治会防犯委員、自治会役員 計約 50 人

(2) 運営協力

名東警察署に防犯自転車診断および年末夜間のパトロールへの協力を依頼し、土木事務所など関係諸機関には新入生対象放置自転車追放キャンペーンへの協力を依頼している。

4 実施のスケジュール

毎月 2 回 自転車対策活動 整理、清掃、警告エフ付け

毎月 1 回 防犯の日パトロール (のぼり、拡声器にて町内巡回)
地域安全パトロール (のぼり、拡声器にて町内巡回)
防犯自転車診断 施錠・防犯登録の有無の確認

年 1 回 新入生対象放置自転車追放キャンペーン

年 2 回 放置自転車追放キャンペーン

年 1～2 回 夏季、年末の夜間警戒パトロール

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民間の交流が深まった。
- ・ 「安心安全はまず自分で守る」という防犯に対する住民の意識が高まった。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者の確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 自治会から出ている防犯委員の参加が少なく、出席できる防犯委員の選出が必要である。
- ・ 活動を継続し、安心安全で快適なまちづくりのために、防犯意識の高揚を図り、全員参加型の活動にしたい。

(4) アドバイス・メッセージ

- ・ 地道な地域活動が、地域住民の防犯意識を高め、犯罪の防止に役立つ。



香流川クリーン大作戦



【香流学区】

■世帯数：4,765 世帯

■人 口：11,572 人

■面 積：1.352 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 5 月と 10 月の年に 2 回、区役所、土木事務所、環境事業所と一体となって香流川の清掃を行う「香流川クリーン大作戦」を実施。延べ参加者数は約 250 人。
- ・ 住民の意識調査アンケートでは「参加したい」とする人が 80%あり、香流川沿いの各種団体とも交流会を行い、よりよい活動について話し合っている。
- ・ 子どもたちも参加して、川の生き物の生態や環境に興味を持つようになっていく。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

清掃できれいになった香流川の遊歩道を、住民が楽しそうに歩きながら川の生き物を見ている。

2 きっかけ、背景

「香流川をもっときれいに」という声をきっかけに、香流学区、引山学区、NPO みずしるべの三者で平成 19 年に会を発足した。翌年以降、毎年 5 月と 10 月の 2 回、行政も一緒になってクリーン大作戦を実施している。

3 実施の体制

- (1) 運営メンバー
区政協力委員、保健委員
計約 21 人
- (2) 他団体との協力
NPO みずしるべ、香流川をきれいにする会など
- (3) 運営協力
子ども会を通じて、子どもとその親の参加を募っている。

5 成果と課題

- (1) 成果・効果
 - ・「地域の事は地域住民で守る」という意識が高まるとともに、住民間の交流が深まった。
- (2) 苦労した点
 - ・川の掃除という地味な作業に、最初はなかなか理解を得ることができなかったが、現在は進んで参加する人が増えている。
- (3) 今後の課題・展望
 - ・香流川の遊歩道を利用して人の絆を作っていくために、さらに有効な活用をしていくことが課題。
 - ・高齢者の「しゃべり場」になるようなベンチの整備や、子どもたちが川の生態系を調べる「生き物探検隊」を結成できるようになるなどの環境整備も働きかけていきたい。
- (4) メッセージ・アドバイス
 - ・このような比較的地味な活動を将来に向けて、楽しく継続していくためには、地域を愛する住民が増えるよう、おもしろいイベントを行うなど、工夫を凝らして考えていくことが必要。

4 実施のスケジュール

H18 年 5 月 「香流川をもっときれいに」の声をきっかけに活動の検討を開始



H19 年 10 月 28 日 香流・引山学区、NPO みずしるべの三者で会を発足



H20 年 3 月 香流川クリーン大作戦のチラシを回覧



5 月・10 月 香流川クリーン大作戦の実施



以降毎年 5 月・10 月の 2 回クリーン大作戦を実施



親子もちつき大会



【猪子石学区】

■世帯数：2,939 世帯

■人 口：7,121 人

■面 積：0.766 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・猪子石小学校を会場に「親子もちつき大会」を開催。参加者数は約 600 人。
- ・毎年恒例の行事であり、前年度の資料を参考に話し合い、企画運営する。
- ・もちつきに加えてビンゴ大会を開催し、子ども会による豚汁販売も行う。より広い世代からの参加が可能となっている。
- ・以前は近所の米屋からもち米を蒸した状態で持って来ていたが、廃業したため、現在は会場で蒸すところから行っている。子どもたちが、もちつきだけでなく、最初の工程から体験できるのが良い。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

昭和 50 年代から続いている。各団体の協力で町内あげて実施するお祭行事である。毎年大勢の参加があり、冬の風物詩となっている。

2 きっかけ、背景

新興住宅地として、住民の転出入が多い地域のため、地域のふれあいが必要とされており、「親子もちつき大会」を地域の交流の場として始めた。親子で参加することによって、大人も楽しむことができる。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、子ども会、老人クラブ、
スポーツ推進委員 計約 25 人

(2) 運営協力

消防団、子ども会、民生委員児童
委員の協力が活動を継続する力とな
っている。

4 実施のスケジュール

毎年4月 開催予定日を確認



12月

学区連絡協議会（もちつき大会実行
委員会）で昨年の実施内容をもとに
役割分担、予算案を決定
チラシの回覧、ポスターの配布



1月 打合せ、準備



1月中旬 親子もちつき大会の開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・地域の交流の場として、参加者が年々増加している。
- ・もちつき大会の開催により、消防団、子ども会の活躍が多くなっている。
- ・餅を食べるための皿、はし、お椀を持参してもらうことで、ごみの減量に対する住民の意識が高まっている。

(2) 苦労した点

- ・元々はもちつきのみだったが、同じ予算でビンゴゲームを加え、自治会組長へ運営の手伝いを促した。また、子ども会による豚汁販売も始めたことで、参加者の増加につながった。

(3) 今後の課題・展望

- ・老人クラブ会員の参加を促し、地域の交流の場として、継続させたい。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・他学区にも同様の事業はあると思う。思い出はとても大切なものであり、継続をお勧めしたい。



青少年の健全育成と「梅波冴^{つばさ}」の活動支援



【梅森坂学区】

■世帯数：2,013 世帯

■人 口：4,503 人

■面 積：0.659 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 青少年の地域における居場所づくりとして、にっぽんど真ん中祭りに参加するための踊りチーム「梅波冴（つばさ）」を結成した。
- ・ 8月の祭り出演を目指して、梅森坂小学校体育館で週2回の練習を重ね、学区の夏まつりやコミセンまつりなどの各種行事や各地のイベントにも出演している。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

名東区で唯一9年連続して平成16年からにっぽんど真ん中祭りに参加している。子どもが少ない学区にもかかわらず青少年健全育成のために頑張っている。

2 きっかけ、背景

青少年の居場所づくりのために学区でよさこいの練習を始めた頃、にっぽんど真ん中祭りに出場するチームづくりをしてほしいと、愛知県警からの要請を受けたことがきっかけとなっている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員 約5人

(2) 他団体との協力

他のよさこいチーム、名東警察署

(3) 運営協力

小・中学校に呼びかけて、子どもたちの梅波冴への参加を募っている。

4 実施のスケジュール

H16年2月 名東警察署からの要請を受けてチーム結成

8月 学区の盆踊り大会において踊りを披露
にっぽんど真ん中祭りに参加

H20年5月 名東の日「高針村ふるさとまつり」に参加

以降、にっぽんど真ん中祭り、学区の行事及び県内外のイベントに参加



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 目標に向かって皆で頑張った結果の達成感を体験できる。
- ・ 地域の大人と子どもたちが親しくなれ、OBの子を含め、日常的に世話焼き活動を深めることができる。

(2) 苦労した点

- ・ 住民の理解を得ることと、活動の担い手の確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続と担い手の世代交代、活動資金の確保が今後の課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ ど真ん中祭りに参加するためには、多くの資金と労力が必要となる。チームを維持するためには、担当者の日常の努力が大変である。

「あいさつ運動」を活用した 高齢者の支え合いと生きがいの創出



【蓬来学区】

■世帯数：3,592 世帯

■人 口：8,159 人

■面 積：0.848km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 高齢者が近隣の人たちとあいさつを交わし合うことを通して、互いに支え合う関係を構築するとともに、新たな生きがいの創出を図る。
- ・ 「学区あいさつ運動」を立ち上げ、あいさつ運動ののぼり旗を持った運営メンバーが、高齢者を訪問してあいさつを交わすとともに、高齢者に運動への参加を呼びかける。
- ・ 高齢者が「あいさつ運動」の一翼を担い、近隣を一巡した後で効果を検証する。
- ・ 平成 24 年度の延べ参加者数は約 80 人。

【住民へのPR方法】

広報誌「よもぎだより」の各戸配布

【アピールポイント】

単なるあいさつ運動ではなく、高齢者が「学区あいさつ運動」の隊列に加わって、道行く人たちに「みなさん、あいさつをしましょう」と呼びかけることを通して、支え合いの基になる知り合いをつくとともに、参加した高齢者自身の生きがいの創出をめざしている。

2 きっかけ、背景

高齢者を初心者向けの講座に誘うと、「参加費がかかるため行きたくない」と答え、それならばウォーキングはどうかと誘うと「骨折り損のくたびれもうけ」

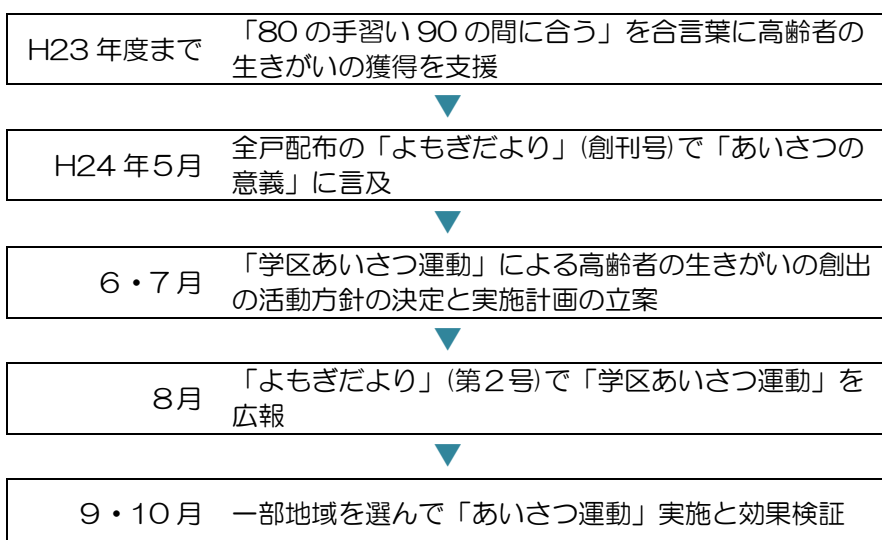
と答える人がいる。そのような高齢者が参加しやすく、生きがいを獲得するにはどうしたら良いか検討し、「あいさつ運動」を始めることとなった。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長 計約 15 人

4 実施のスケジュール



5 成果と課題

(1) 成果・効果

運営メンバーが実際に会ってあいさつを交わし、話し合った 70 歳以上の独居高齢者は、44 人だった。このうち、趣味や活動に取り組んでいる人 9 人、体調不良の人 22 人、その他用事などのある人 7 人を除くと、「あいさつ運動」に参加可能な人が 6 人になった。その 6 人に「あいさつ運動」の隊列に加わってもらった。事後アンケートで 6 人全員から「参加してよかった」、また 5 人から「また参加したい」という反応が得られた。

(2) 苦労した点

対象とした独居高齢者に体調不良の人が予想以上に多く、「あいさつ運動」への参加者の人数を十分に得ることができなかった。

(3) 今後の課題・展望

今回実施した「あいさつ運動」をさらに検討し、工夫して、高齢者の支え合いと生きがいの創出に繋げていきたい。

交通安全見守り運動



【本郷学区】

■世帯数：4,289 世帯

■人 口：7,961 人

■面 積：0.756 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 校外委員（PTA）と区政協力委員（自治会長）による児童の安全確保のための学区内主要交差点の横断歩道における「交通安全見守り運動」を実施している。延べ参加者数は約 250 人。
- ・ 学校・家庭・地域の三者合同による全児童への交通安全指導を小学校校庭において実施。
- ・ 学校・家庭・地域の三者合同による安全マップの点検と見直しを実施。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

朝の登校時、整列歩行が児童分団長のもと整然と行われている。
朝のあいさつ「おはようございます」が大変良くなってきた。

2 きっかけ、背景

通学時の事件・事故が大きな問題になっている状況を踏まえ、子どもたちが安心して地域で生活できるような環境づくりを進めるため、学校と家庭と地域の三者が一体となって、子どもの安全を重視して取り組むこととした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、PTA、子ども会、老人クラブ、交通指導員 計約 300 人

(2) 他団体との協力

小学校校外委員、セーフティパトロール隊

(3) 運営協力

年度初めに新担当役員への役割分担の説明と義務づけを行う。

4 実施のスケジュール

	学 校	家 庭 (PTA)	地 域 (区政)
4月 ～ 7月	- 交通安全教室の開催 - 登下校時の現地指導 110 番の家の協力依頼 - お迎えボランティア隊の結成	- 交通安全教室への参加 - 交差点での見守り（毎日） 110 番の家としての協力 - 校外委員（PTA）の委嘱と編成	- 交通安全教室への参加 〇の日の交差点見守り 110 番の家の確認 - ボランティア隊との連携 - パトロール隊の編成
8月 ～ 11月	- 安全マップの見直し活動 - パトロールへの参加 - 交通安全教室の開催と教員・児童を含む現地指導	- 安全マップ見直し活動への協力 - パトロールへの参加 - 安全教室への参加と行動	- 月例パトロールの実施 - 三者と警察官による安全教室への参加
12月 ～ 3月	- 年末特別警戒活動の実施 - 地域点検への参加 - 次年度児童分団長の選出	校外委員（PTA）の地域点検への参加とマップづくり（横断歩道の標識補修）	三者合同による総合地域点検の実施とアドバイス（通学路、標識類）

5 成果と課題

(1) 成果・効果

定期的な活動により、児童の交通安全の意識が高まっている。

(2) 苦労した点

活動の担い手がどうしても少ないので、地域の役員に、半強制的にお願いしている。

(3) 今後の課題・展望

子どものための地域団体役員になることを辞退する親が増えてきており、活動の継続と担い手の世代交代が課題。

(4) アドバイス・メッセージ

基本的な交通安全教育実施指導の繰り返しが大切。



防犯安心まちづくり



【貴船学区】

■世帯数：3,268 世帯

■人 口：9,110 人

■面 積：0.996 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

学校と地域の連携による「近所の目」で地域の安全を見守るため、さまざまな防犯活動を実施。延べ参加者数は約 700 人。

- ① 貴船パトロール：子どもの登下校見守り活動を実施
- ② 貴船防犯青色防犯パトロール隊：青色回転灯車での学区内巡回パトロールを実施
- ③ セーフティーパトロール隊
- ④ 「子ども 110 番の家」の増設と防犯マップの作成
- ⑤ きふネット配信（メールを活用した防犯情報の配信）、防犯ニュースの発行

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、広報誌「きふねだより」の回覧、「貴船コミュニティホームページ」による発信

【アピールポイント】

貴船防犯青パト隊が防犯の要となっている。隊員 40 名が計画表により、交代で実施している。

2 きっかけ、背景

大阪の池田小学校事件は「学校の安全をいかに保つか！」という問題を提起した。学校を守るためには、学校だけでなく地域との連携による「近所の目」で安全を見守ることが必要と考え活動を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

学区連絡協議会 計 72 人（子ども 110 番の家を除く）

(2) 運営協力

学区連絡協議会に防犯部を置き、継続的な役割分担を決めている。

4 実施のスケジュール

年間出校日	青パト・貴船パトロール
週 1 回	青パト・夜間パトロール
夏休み	自治会による夜間パトロール
毎週金曜日	きふネット（学区内の防犯情報をメール配信）
毎月 1 回	セーフティーパトロール
夏・冬休み	青パト夜間（金・土）パトロール
毎月第2土曜日	防犯ニュース発行

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 青パトを中心に、住民の防犯に対する関心が高まるとともに、住民間の交流が深まった。
- ・ 犯罪件数が半減し、犯罪抑止力につながった。

(2) 苦勞した点

- ・当初は住民の関心が薄く、特にPTAの参加はゼロであったが、子どもが青パトに関心を持ったことで、親に影響を及ぼし、パトロール参加者にあいさつをするようになった。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動を継続するために、担い手の確保が今後の課題である。
- ・青パトを維持するための活動資金の確保が必要である。

(4) メッセージ・アドバイス

- ボランティアだけでは運営できない。学区連絡協議会などで組織的なバックアップ体制が必要。



貴船防犯ニュース

N072、H24年7月
貴船区警察区画図

日野発生状況(元月)

発生区	件数	件時	件時率	発生率
北条区	30	232	27	11.4
南条区	16	141	14	12.0
計	46	373	41	23.0

近畿10市町村(比較・参考値)

	発生	件時	件時率	発生率		
北条区	1	0	4.1	20	15	9.8
南条区	0	0	1	2	14	12.2
北条市	0	0	0	5	9	4
南条市	2	1	4.1	33	92	14
北条町	2	2	0	35	92	13
南条町	0	0	0	0	2	2
北条町	0	0	0	0	3	3
南条町	1	1	0	22	28	2
計	6	5	11	118	346	28

東海7市町村(参考値)

大井町	24	315	13	37.0
北条市	105	105	1	24
合算率	28	263.6	1	30.0

北条防犯 近畿東海発生状況(元月・西暦・%)

	発生	件時	件時率	(%)
近畿発生数	0	1	-1	-100.0
東海発生数	0	0	-1	-11.1
北条発生数	46	373	41	100.0
近畿東海発生数	1,906	1,782	118	+6.6

近畿東海発生状況

1 発生	12 人	6 月	1 人	0 月	発生率
1 発生	12 人	1 人	0 月	+4.3	
2 発生	12 人	9 人	7 人	+	
3 発生	12 人	8 人	8 人	+2.2	
4 発生	12 人	12 人	8 人	+7	
5 発生	10 人	8 人	8 人	+2	

6月未結件数

■東区 1158件 -167件
■貴 船 46件 -3件

貴船に高知状

貴船の被害状況について、7月1日現在で、貴船防犯ニュースに掲載の被害状況とほぼ一致し、被害発生に高知状が寄せられました。

6月までの、被害を超過する事がありませんようとして、警察として10件以上の、被害発生に高知状を10

高齢期に安心して住める住まい・まちづくり



【極楽学区】

■世帯数：3,474 世帯

■人 □：8,047 人

■面 積：1.222 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 極楽コミュニティセンターを会場に、高齢者との対話集会を企画し、悩み相談事業を実施。
- ・ 名古屋市住宅都市局の要請で極楽第3自治会および第4自治会をモデル地域として「高齢期の住まい・住み替えニーズ」に関するアンケート調査を実施。

【住民へのPR方法】

アンケートの実施

【アピールポイント】

近年、高齢者の一人暮らしや高齢夫婦世帯が増加しており、子どもと一緒に建った住宅を継続使用しているが、広すぎて管理に困っている方が多く、住み替えなどの支援が必要。

2 きっかけ、背景

猪高緑地に防災倉庫を2ヶ所設置し、大地震などの災害時の炊き出し用品、水、その他一時的な支援のための備品を整備したことをきっかけに、災害時の住まいについて議論を行った。その中で高齢者の住まいについて考えるようになった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長

(2) 他団体との協力

名古屋市住宅都市局住宅企画課
及び市が協力依頼している大学

4 実施のスケジュール

H24年
9月 アンケートの実施



10月 アンケートの分析（名古屋市および大学にて実施）



H25年 アンケート結果に応じて、相談会
などを開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

高齢者の住まいに関する悩み事が多く、また住み替え要望が多いことが分かった。

(2) 苦労した点

国による住み替え支援制度はあるが知られていない。

(3) 今後の課題・展望

制度のPRが必要。高齢期の住まいに関しては市のバックアップが必要と考えている。



「ビーサン跳ばし」競技大会



【上社学区】

■世帯数：3,984 世帯

■人 □：8,962 人

■面 積：1.559 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 上社公園を会場に、「名東の日（5月 10 日）：上社まつり」において、『ビーサン跳ばし』競技大会を開催、参加者数は約 600 人。
- ・ 世界的競技で「ギネスに挑戦」の看板を掲げられる個人競技を探し、かつ日本では知名度が低く、名古屋市内では実施されたことのない競技として「ビーサン跳ばし」を選択した。
- ・ 小さな子どもから高齢者まで、用意されたビーチサンダルを跳ばし、その飛距離を競って、部門毎に上位入賞者を表彰する。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

当初の思惑よりも子どもも大人も皆のめり込み、記録にチャレンジして盛り上がるため、地域一体化にはもってこいのイベント。

2 きっかけ、背景

住民の絆が希薄化している現状を打破するイベントを「名東の日」に実施するために、住民のみなさんが楽しく一体化できるイベントを学区連絡協議会で協議した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、女性団体・女性会、スポーツ推進委員
計約 60 人

(2) 運営協力

上社学区連絡協議会メンバーが組織毎に運営を分担。運営推進役の後継者がいないのが今のところの悩み。

4 実施のスケジュール

H21 年
2月 提案・企画書の作成



3月 実施企画書、運営マニュアルの作成



4月 ローカルルールの作成 ビーサンの調達



5月 ギネスに挑戦「第1回ビーサン跳ばし」競技大会の開催



H22 年
5月 第2回競技大会の開催

▼(H23 は中止)

H24 年
5月 第3回競技大会の開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・「ビーサン跳ばし」の際に「ぜんざい」をふるまうことが上社学区の名物行事として住民に定着し、次回はいつかと期待されるようになった。
- ・参加者、特に親子での参加が増え、交流が深まった。

(2) 苦労した点

- ・主役の「ビーチサンダル」の入手が5月になってしまう。
- ・平成 23 年度は震災の影響で 11 月へ延期したが、11 月も雨天中止となったため参加者が失望した。

(3) 今後の課題・展望

- ・学区全体の総力をあげてのイベントであり、中心人物となる推進役を確保することが今後の課題である。
- ・「継続は力なり」と考え、活動を継続していきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・参加者が予想以上に盛り上がり、継続するイベントになる。



敬老会



【豊が丘学区】

■世帯数：2,222 世帯

■人 □：4,794 人

■面 積：0.684 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 75 歳以上の高齢者を対象に、「敬老会」を開催。参加者数は約 150 人。
- ・ 9月の「敬老の日」に、式典とアトラクションを行う。
- ・ 開催にあたっては、地域の民生委員児童委員が対象者の自宅に案内状を持参し、出欠を確認する。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、民生委員児童委員が対象者宅に案内状を持参

【アピールポイント】

75 歳以上の方を対象としているが、本人の出席ができない場合は、親族による代理出席も可能とし、お土産などを持ち帰ってもらっている。

2 きっかけ、背景

高齢化した現状で、高齢者の孤立防止と近隣の高齢者との交流を図り、地域全体として見守りをしようと、自治会、地域福祉推進協議会として取り組むこととした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、
各種団体長 計約 30 人

(2) 他団体との協力

地域福祉推進協議会、自治会

4 実施のスケジュール

毎年
8月上旬 内容の企画検討と案内状作成

8月下旬 案内状を持参し、出欠の確認

9月上旬 お土産、記念品、85 歳祝品などの
手配と会場の打合せ

敬老の日 自治会福祉委員、民生委員児童委員
で受付などを行う。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

なるべく近隣の人と誘い合わせて出席してもらうことで、住民間の交流の深まりにつながっている。

(2) 苦労した点

学区内の高齢者施設にも出席を依頼するなど、参加者の確保に苦労している。

(3) 今後の課題・展望

担い手の確保のために、民生委員児童委員だけでなく、地域福祉推進協議会が独自のボランティアを募集し活動してもらうことが必要だと思う。

(4) メッセージ・アドバイス

アトラクションについては学区で活動している人をお願いしている。また、小学生が参加し、参加者 1 人ひとりに手紙を手渡している。



平成23年8月吉日

貴地区域福祉推進協議会
会長 秋本 良次
共催 名東区役所

敬老会のご案内

謹啓 貴地区のほかにあそび場、貴会におかれましては誠にありがとうございます。また、敬老の日を前に、敬老会を開催させていただきます。さて、今年恒例の貴地区域敬老会を下記のとおり開催させていただきますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

日 時 9月19日(月)「敬老の日」10時～11時30分
場 所 サンプラザ・シーズンズ(地下1階大ホール)
☆受付開始 9時30分より
☆式典開始 10時
☆アトラクション 10時30分～11時30分
※小学生児童からの手紙配布
※「ご一健に絆を結ぶしよう」ヘルスアップ体操
※民謡 踊り と フラダンス
※太鼓 連 阿波 踊り
準備の都合がございますので、出欠票は案内状を持参しました地域の民生委員児童委員にお渡し下さい。
なお、健康上またはその他の都合によりご出席いただけない場合は代理出席の方のご出席をお待ちしています。代理出席の方も式典はご参加下さい。

どちらかにマル印をおつけ下さい

ご出席 〇 欠席 〇

ご芳名 代理出席者名

ご住所

香流川クリーン大作戦



【引山学区】

■世帯数：2,774 世帯

■人 □：6,449 人

■面 積：0.604 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

平成 18 年より、春と秋の年に 2 回、香流川の藤森橋から新屋敷橋までの遊歩道、側道以外の土手、河川敷内の歩道のゴミ、ペットボトル、空き缶などの回収を行っている。延べ参加者数は約 300 人。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、掲示板へのポスター掲示

【アピールポイント】

継続実施することにより、毎回多数の住民が参加している。住民の美化意識の高まりにより遊歩道のゴミが激減し、桜の名所香流川が地域のみなさんの憩いの場となっている。

2 きっかけ、背景

平成 18 年 5 月に学区住民の「香流川をきれいに」との機運が高まり、同年 12 月に当学区と NPO 法人の協力で「香流川クリーン大作戦」を実施したところ、300 人が集まり、清掃活動を行うことができた。平成 19 年からは香流学区も参加し、平成 20 年に引山学区、香流学区、NPO 法人による「香流川を守る会」が正式に発足した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、子ども会、老人クラ
ブ 計約 100 人

(2) 他団体との協力

香流川をきれいにする会(長久手
市)、NPO 法人みちしるべ、藤の
木団地自治会

(3) 運営協力

学区事業として位置づけ、学区連
絡協議会で自治会、子ども会、各種
団体長などに参加を呼びかけ、親子
での参加が増加している。

4 実施のスケジュール

H18 年 12 月 第 1 回香流川クリーン大作戦
を実施

H19 年 8 月 香流学区も加わり活動を計画
10 月 「香流川を守る会」発足、実施

H20 年以降 春・秋 2 回実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民の美化意識が高まるとともに、きれいになった香流川を会場とした「桜まつり」を春に開催し、交流の深まりにつながっている。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者の確保や活動への住民の理解を得ること及び活動の担い手不足に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動資金を確保するとともに、他団体との協力体制を強化し、活動を継続していくことが課題。
- ・ 活動の内容のマンネリ化を防ぐため、清掃の方法を考えるなどの工夫をしていきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 河川の上流、下流の関連自治体や学区との連携が重要。



防災名簿「防災あんしん調査票」の発行



【平和が丘学区】

■世帯数：2,342 世帯

■人 □：5,403 人

■面 積：0.790 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 地震などの災害に備え、地域住民の安否確認、救命救護、救援物資、義援金などの資料として、また災害時要援護者を事前に把握するため、平成 16 年度より全世帯を対象に「防災あんしん調査票」を作成している。平成 23 年度には 86.2%の回収率となった。毎年更新し、回収した調査票は自治会長が管理し、前年度分は溶解廃棄している。
- 家庭でできる防災の講習会（布草履、防災頭巾づくり、ロープ活用術）、ビデオ鑑賞会などを開催し住民へ PR をしている。
- 地域密着型防災訓練時には「防災あんしん調査票」をもとに避難確認シミュレーションを行うほか防災講話を開催。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、「防災タイムズ」年 4 回発行

【アピールポイント】

防災あんしん調査票をもとに安否確認の仕組みを構築。
個人情報については、本人の賛同を得て提出してもらう。
調査票は組別にファイルし、自治会長が責任を持って管理する。
調査票は毎年更新し、前年度分は回収して溶解廃棄している。

2 きっかけ、背景

平和が丘学区は閑静な住宅地で、工場・商業施設がほとんどないため、日中の人口は3分の1に減少し、災害の発生時には混乱が生じると懸念されていた。阪神淡路大震災の教訓から地域の防災活動の強化および安否確認手段が必要と提案され、学区内に防災対策委員会を設立した。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、消防団員 計約12人

4 実施のスケジュール

【平成24年度 防災あんしん調査票】 (平和が丘学区連絡協議会)

この調査票では、住所、電話番号、家族構成、有職者、介護福祉士の有無、災害時の避難場所、などを記入していただきます。お預けにはマシソン、アパートの名称、郵便番号、お預けの番号もご記入下さい。「管理棟・介護福祉士」の欄では、管理棟・介護福祉士の役名をお知らせ下さい。○印をお付け下さい。「災害時連絡簿」の欄では、災害時に連絡が必要な方は○印をお付け、そのあとにその住所をお書き下さい。

世帯番号	住所	家族構成	有職者	介護福祉士	災害時の避難場所	その他
1	平和が丘 1-1-1	・夫 50歳 ・妻 45歳 ・子 10歳 ・子 5歳	・夫 会社員 ・妻 専業主婦	○	自宅	
2	平和が丘 1-1-2	・夫 55歳 ・妻 50歳 ・子 15歳 ・子 10歳	・夫 会社員 ・妻 専業主婦	○	自宅	
3	平和が丘 1-1-3	・夫 60歳 ・妻 55歳 ・子 20歳 ・子 15歳	・夫 会社員 ・妻 専業主婦	○	自宅	
4	平和が丘 1-1-4	・夫 58歳 ・妻 53歳 ・子 12歳 ・子 8歳	・夫 会社員 ・妻 専業主婦	○	自宅	
5	平和が丘 1-1-5	・夫 62歳 ・妻 57歳 ・子 18歳 ・子 13歳	・夫 会社員 ・妻 専業主婦	○	自宅	

※世帯番号は、町内会・自治会単位で1から順に付与されています。○印は、災害時に連絡が必要な世帯です。

H15年5月 学区連絡協議会内に地震対策委員会を設立、名簿の作成を検討

(毎年)7月 防災あんしん調査票を全戸配布し、8月に回収

H19年10月 住民の防災力をさらに高めるため、「防災タイムズ」発行開始

H23年5月 年度初めに各自治会長へ防災関連説明会を実施

9月 防災あんしん調査票の回収率86.2%を達成

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民を対象にした防災力強化活動を実施するとともに全戸配布の「防災タイムズ」を発行し、住民の防災に対する意識が高まった。

(2) 苦労した点

一部の住民、団体から名簿作成に伴うプライバシーの問題の指摘があり、適切に管理していくことを理解してもらうことに大変苦労した。

(3) 今後の課題・展望

自治会の未加入世帯への働きかけや集合住宅の社員寮や不動産管理会社が管理する世帯の自治会への加入促進が今後の課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

住民のプライバシーに関わるため、実施のPR、調査票の利用および管理要項の明確化が必要。

竹林で遊ぼう



【前山学区】

■世帯数：3,014 世帯

■人 口：7,349 人

■面 積：2.007k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 牧野ヶ池緑地において、小学生とその保護者を対象に、楽しみながら竹と森について学ぶ。参加者数は約 250 人。
- ・ 牧野ヶ池緑地公園の清掃と竹の伐採、たけのこ掘りを行い、昼食にたけのこご飯と豚汁を参加者にふるまう。
- ・ 雨天時は小学校の体育館で竹とんぼ飛ばし大会を開催。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

住民が利用する公園はゴミ（お菓子の袋、空き缶、ペットボトルなど）がたくさん落ちている。親子でそのゴミを掃除し、その後竹伐採とたけのこ掘りを行う。汗を流した後の昼食はおかわりが続出。

2 きっかけ、背景

10 年前から緑地の清掃を目的として実施し、清掃活動を通じて地域の自然について子どもたちと学ぶ場として、また、住民間や世代間のふれあいの場として継続して開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、子ども会、老人
クラブ 計約 30 人

(2) 他団体との協力

牧野ヶ池緑地公園管理事務所、尾
張北部建設業組合青年部、ボランテ
ィア団体「じゃりんこ」

4 実施のスケジュール

毎年 3月初旬 公園管理事務所と打合せ

3月中旬 ビラ配り及びチラシの回覧

3～4月 昼食用のたけのこ掘り

4月当日 「竹林で遊ぼう」の実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

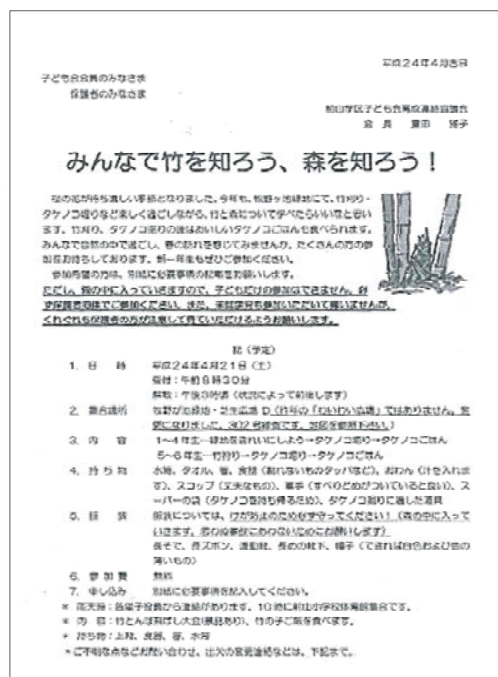
参加者が増加したほか、住民の環境意識の
高まり、住民間の交流の深まりにつながった。

(2) 苦労した点

許可を得て緑地のたけのこ掘りを行って
いるが、その理解を得ることに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

運営メンバーが高齢のため、当日までの準
備が大変である。活動の継続のために、担い
手の育成が今後の課題。



北一社学区青色防犯パトロール隊



【北一社学区】

■世帯数：4,186 世帯

■人 口：8,780 人

■面 積：0.900 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

学区のボランティアによる青色防犯パトロール隊を結成し、さまざまな「安心・安全なまちづくり活動」を行っている。現在の隊員数は 32 人。

①学区内パトロール

学区内を巡回し、防犯の呼びかけと監視のほか、公園の点検、清掃などを行う。下校時のパトロールでは小学生の体験乗車も受け入れている。

②お散歩パトロール

パトロールジャケット、帽子を協力者に貸し出して、日常の犬の散歩時などに着用してもらい、防犯体制の強化を図っている。

③「北一社青パトだより」

年に 3 回、青色防犯パトロール隊の活動を報告する「北一社青パトだより」を発行し、回覧している。

④学区防犯カメラ導入

学区連絡協議会の協力で、平成 24 年 10 月に一社駅付近に 3 台の防犯カメラを設置。今後も学区防犯カメラ増設、個人防犯カメラの登録斡旋を進めていく。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、「北一社青パト ホームページ」による発信

【アピールポイント】

学区の活動団体として、なくてはならない存在になってきたこと。各隊員のやりがいを感じる。

2 きっかけ、背景

学区内に地下鉄の駅があることから、侵入盗、自転車盗、車上狙い、部品狙いの犯罪が多い。平成 20 年に「青色回点灯防犯パトロール車」が日本宝くじ協会から愛知県防犯協会連合会に寄贈され、名東警察署の推薦で学区に配備されたのをきっかけに、「青パト隊」を 16 人で再編成して防犯パトロール活動を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、子ども会、青パト隊員 計約 40 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会、北一社小学校

(3) 運営協力

一部住民にパトロールジャケットと帽子を貸与し「お散歩パトロール」に協力してもらっている。

4 実施のスケジュール

H21 年 4 月 下校時のパトロールの小学生体験乗車を開始

H22 年 6 月 「北一社青パトだより」を年 3 回発行・回覧を開始

H23 年 2 月 「お散歩パトロール」の活動を開始

9 月 ~2 月 「防犯カメラ設置モデル事業」に協力

10 月 「北一社青パトホームページ」における案内を開始

H24 年 5 月 「警察による防犯郊外指導」を各町内で実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民の意識が高まり、こちらからあいさつすると 7 割ぐらいの人が笑顔であいさつを返すなど、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

毎日パトロール活動を行う約 30 人の隊員を確保するのに、2 年ほどかかった。

(3) 今後の課題・展望

「犯罪ゼロの街づくり」を目標に、防犯カメラの設置をすすめ、名東区全体の防犯の強化へとつなげていきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

他の学区でも青パト活動や防犯カメラ導入などの活動をすすめてもらえば、犯罪件数は半減すると思う。そのための資料提供、体験乗車、活動紹介講演など、ご希望があればいつでも協力したい。



“0の日”を中心に児童学区民の交通安全を



【牧の原学区】

■世帯数：1,517 世帯

■人 口：3,632 人

■面 積：0.462 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・「交通事故死0の日」に、交通量の多い高針牧交差点において、午前7時半から1時間、歩行者の交通安全指導を行う。延べ参加者数は約300人。
- ・地域の各種団体と警察署、交通指導員などが協力して、歩行者に交通安全を呼びかけている。

2 きっかけ、背景

高針牧交差点周辺は、名古屋高速東山線のインターチェンジや名古屋環状2号線があるため、通過交通量が非常に多く、歩道橋等の整備はされているものの、児童や学区民に対し、注意深く粘り強く、交通安全意識の向上を呼びかけ、運動していく必要がある。



3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、PTA、老人クラブ
計約 300 人（年間）

(2) 他団体との協力

警察署・交番、交通指導員

4 実施のスケジュール

- ・ 日曜日、祝日以外の「交通事故死〇の日」には高針牧交差点において、交通安全指導活動を実施している。
- ・ 「名東区安心・安全で快適なまちづくりの日」には、小学生を対象とした自転車の乗り方指導を実施している。



5 成果と課題

(1) 成果・効果

交通安全に対する住民の意識が高まった。また、活動を継続してきたことで、活動が住民に浸透し、住民から感謝の言葉をよくかけられるようになった。

(2) 今後の課題・展望

学区全体の児童の通学路の点検や、朝夕の通勤時の抜け道運転を行う車の点検など、より効果的な人員の配置を学校や警察と相談して取り組んでいきたい。